

# 椎の苗木通信



# 夢・力・花いっぱい

木城町立木城中学校

TEL 0983-32-2028

FAX 0983-32-4191

木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

## 中体連陸上・駅伝結果

10月7日(金)に都農町の藤見運動公園で、西都児湯地区陸上競技大会が行われました。結果は次のとおりです。

➤ 1年 800m 女子 1位 中嶋素羅さん 4位 濱砂慧花さん	➤ 2年 800m 女子 1位 吉田清葉さん 5位 坂本凜々子さん
➤ 2年 200m 女子 4位 鈴木萌香さん	➤ 砲丸 女子 5位 堀美妃さん
➤ 1年 1500m 男子 1位 平元亮くん 2位 海老原隼弥くん	➤ 1年 3000m 男子 1位 田原丈靖くん

上記の生徒は、11月5日、6日に県運動総合公園で行われた県中体連大会に出場し、よく健闘しました。特に、1年1500mで、42名中、平元亮くんは6位、海老原隼弥くんは8位の好成績でした。

次に、西都・児湯地区駅伝競走大会が10月18日(火)、西都市西地区運動場発着コースで行われました。競技結果は

- 男子 2位
  - 女子 3位, 11位(女子は2チーム出場)
- でした。また、男女それぞれ1チームが、11月13日(日)西都市役所がスタート・ゴールとなっている公認西都マラソンコースで行われた県中体連駅伝競走に出場しました。結果は、

男子が10位、女子は13位と、両チームともよく健闘しました。

## 生徒の熱心な取組の文化祭

「鼓動～響け 文化のハーモニー」をスローガンに10月16日(日)本校体育館で盛大に開催されました。実行委員会の計画、運営に従って各学級の生徒が熱心に練習や準備に取り組みました。



午前中のプログラムは、「なにこれ木城」をテーマにした1年生の発表、続いて英語弁論・暗唱が行われ、2年生の発表では、ポスターセッションで行い、7月に実施した職場体験学習活動のことについてまとめたものでした。次に、展示作品の観賞をしてから、合唱コンクールが行われました。3Bが金賞でした。午後は、3年生による劇「人形館」でした。全員が役者になったり、舞台裏の役割を担ったり、準備に取り組んだりして作り上げた素晴らしい内容でした。休憩時間には、PTAによる食品バザーと物品バザーが行われました。

## 東京シティ・バレエ団公演

10月20日(木)午後、町体育館で文化庁主催の文化芸術による子供の育成事業である東京シティ・バレエ団によってバレエ公演が行われました。

第1部 13:30～13:50「バレエってなあに?～バレエを楽しもう!」では、バレエダンサーの練習や練習内容についての説明がありました。バレエによる表現の仕方についてもお話がありました。

第2部 14:00～14:40「コッペリアから『コッペリウスの仕事部屋』」で実際のバレエの演技がありました。続いて、

第3部 14:50～15:10「コッペリアから『鐘の祭り』」で場面を変えたバレエの演技がありました。



ほとんどの生徒は初めて観賞するバレエに感動していた様子でした。

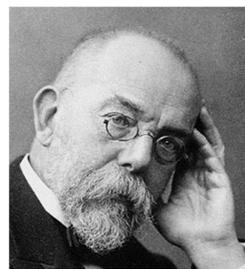
## 生徒会役員感謝状授与式、任命式

10月21日(金)の1校時に体育館で、生徒会役員授与式と任命式が行われました。まず、生徒会執行部の振り返りの発表、各専門委員長、副委員長の振り返りの発表がありました。続いて新生徒会執行部、各専門委員長、副委員長による生徒会活動に対する抱負と決意を発表しました。みんなよくまとめて発表することができました。

## 校長雑感

### 「決して降参するな！」

近代細菌学の開祖といわれるロベルト・コッホ(1843～1910)は、ドイツ、ハノーバー近郊で鉱山技師の子として生ま



れ、大学卒業後、町医者となりました。

当時、ヨーロッパで流行していた病気に炭疽(たんそ)病がありました。腫れ物ができ、最悪の場合は、死に至る病気です。

彼は妻からプレゼントされた顕微鏡で血液を調べ、小さい棒状の微生物「炭疽菌」を発見しました。さらに、彼は炭疽病が炭疽菌によることを克明に証明した『炭疽病の原因』という論文を書いて、一躍、世界の注目を浴びることになりました。炭疽菌は、世界で初めて病気の原因として確認された細菌となったのです。

その後も、コッホは世界各地で流行していた敗血症はいけつしょうや結核、コレラなどの病原菌を次々と発見していきました。当時、感染症は「悪い気」が原因だとの迷信が信じられていましたが、コッホの病原菌発見により、感染の原因が分かり、科学的な予防と治療が可能になったのです。これらの業績に対して、1905年にノーベル生理学医学賞を受けています。

コッホの言葉に「決して降参するな」というものがあります。思い込みにとらわれず、あきらめず、信念を貫き通す強い気持ちが、偉大な業績を生み出す原動力だったのでしょうか。

